

1 調査概要

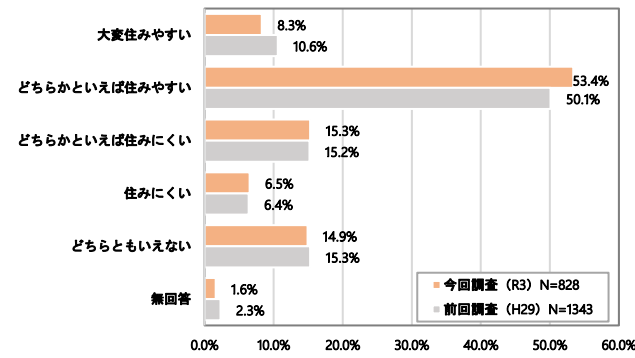
本調査は、第2次大田市総合計画（後期計画）の策定にあたり、多様化する市民ニーズや行政課題を把握するため、本市が推進している施策の満足度並びに重要度を調査し、後期計画策定の基礎資料とすることを目的とする。
 ※集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。従って、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。

調査期間	令和3年12月24日～令和4年1月20日
調査対象	市内在住の満18歳以上の男女
標本数	約2,000人（配布数 2,011人）
抽出方法	住民基本台帳から無作為に抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収調査及びしまね電子申請サービス利用による回答
有効回収数	828件（有効回収率41.2%）

2 調査結果

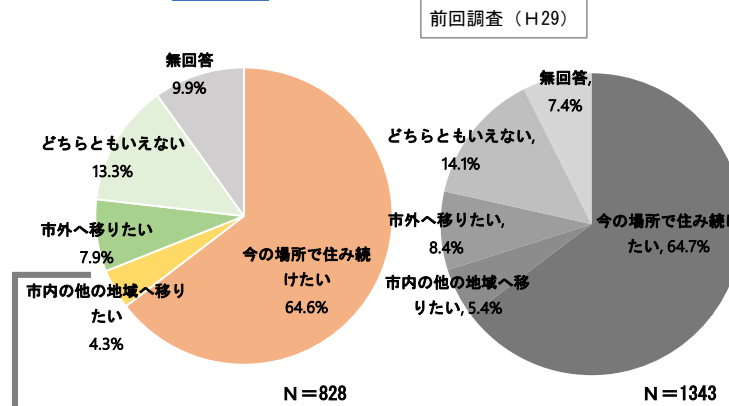
(1) 現在の住環境について

① 大田市の住み心地 問11 SA



- 全体の約6割が『住みやすい』と感じている。「大変住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計
- 前回調査から「住みにくい」が0.2ポイント減少し、『住みやすい』の割合が微増している。

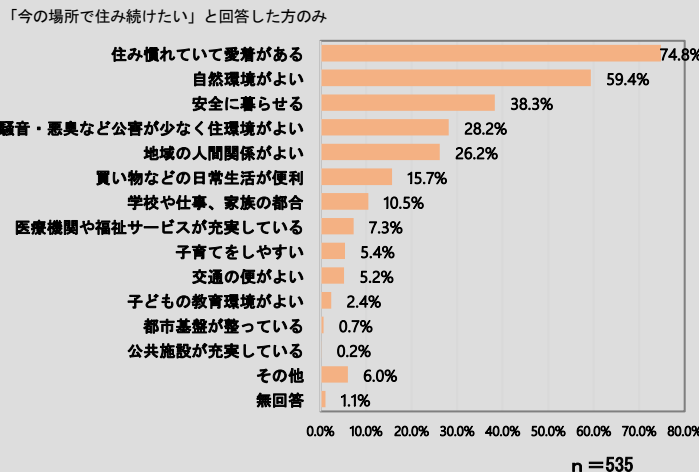
② 居住意向 問12 SA



- 『大田市内での居住意向』は全体の約7割を占めている。「今の場所で住み続けたい」「市内の他の地域へ移りたい」の合計
- 前回調査から「市内の他の地域へ移りたい」が1.1ポイント減少し、市内での移動意向に減少がみられる。

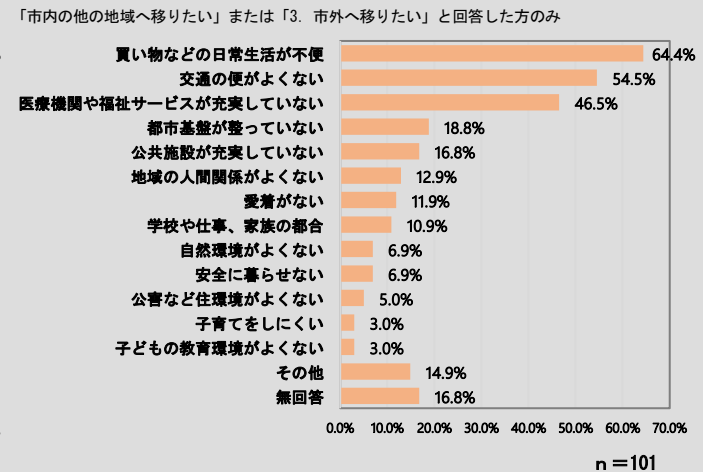
理由

②-1. 住み続けたい理由 問12-1 MA (3つまで)



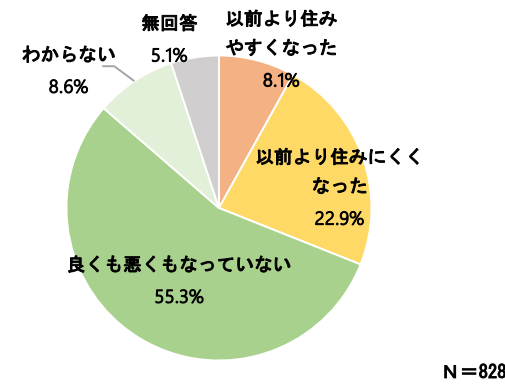
- 「住み慣れていて愛着がある」が74.8%と最も高い。次いで「自然環境がよい」が59.4%、「安全に暮らせる」が38.3%となっている。

②-2. 移りたい理由 問12-2 MA (3つまで)



- 「買い物などの日常生活が不便」が64.4%と最も高い。次いで「交通の便がよい」が54.5%、「医療機関や福祉サービスが充実していない」が46.5%となっている。

③ 生活環境の変化 問13 SA



- 「良くも悪くもなっていない」が全体の約6割を占めている。
- 「以前より住みやすくなった」よりも「以前より住みにくくなった」が上回り、14.8ポイント高い。

③-1. 生活環境の変化の理由 問13-1 自由記載

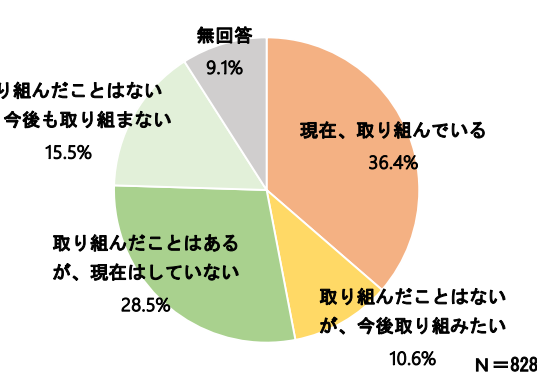
	住みやすくなった理由 n=67	住みにくくなった理由 n=190
1	道路が良くなった (21件, 31.3%) (居住地別) 高山66.7%、仁摩50.0%	人口減少・少子高齢化 (40件, 21.1%) (居住地別) 高山57.1%、西部25.7%
2	買い物便利になった (15件, 22.4%) (居住地別) 高山33.3%、中央30.0%	店がなくなり買い物不便 (32件, 16.8%) (居住地別) 三瓶・温泉津33.3%
3	交通の便が良くなった (11件, 16.4%) (居住地別) 温泉津100.0%、中央23.3%	鳥獣被害 (22件, 11.6%) (居住地別) 三瓶16.7%、東部15.2%
4	上下水道等の整備 (4件, 6.0%) (居住地別) 仁摩16.7%、東部13.3%	交通の便が悪くなった (20件, 10.5%) (居住地別) 東部15.2%、中央13.0%
5	静かになった (2件, 3.0%) (居住地別) 東部13.30%	空き家が多くなった (17件, 8.9%) (居住地別) 高山14.3%、仁摩13.8%

※居住地別は、全体平均よりも高い上位地域を示す。

- 住みやすくなった理由に「道路が良くなった」が高山や仁摩で高くなっている。
- 「人口減少・少子高齢化」が高山や西部で高くなっている。

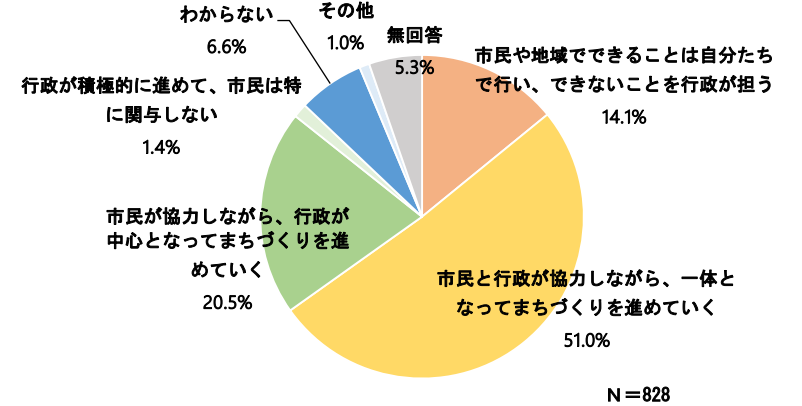
(2) 地域活動（まちづくり）について

① 地域活動の取り組み 問20 SA



- 「現在、取り組んでいる」が全体の約4割を占めている。
- 一方、地域活動未経験者のうち、「今後取り組みたい」よりも「今後も取り組まない」が上回り、4.9ポイント高い。

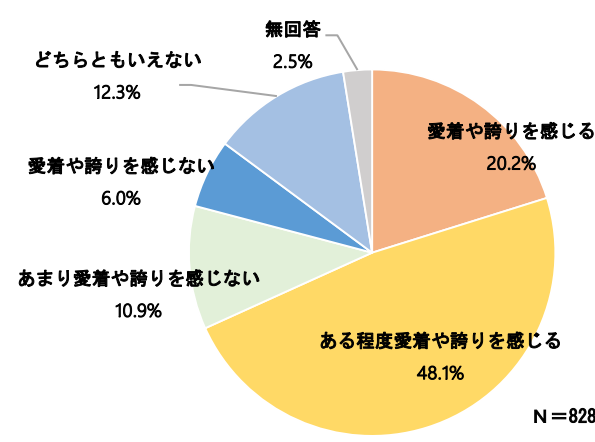
② 地域活動の市民と行政の役割分担 問21 SA



- 「市民と行政が協力しながら、一体となってまちづくりを進めていく」が全体の約5割を占めている。

(3) 大田市について

① 大田市への愛着や誇り 問35 SA



- 『大田市に愛着や誇りを感じている』は全体の約7割を占めている。「愛着や誇りを感じる」「ある程度愛着や誇りを感じる」の合計

② 大田市のセールスポイント（自慢できるところ）・今後の心配ごと 問36・問37MA (3つまで)

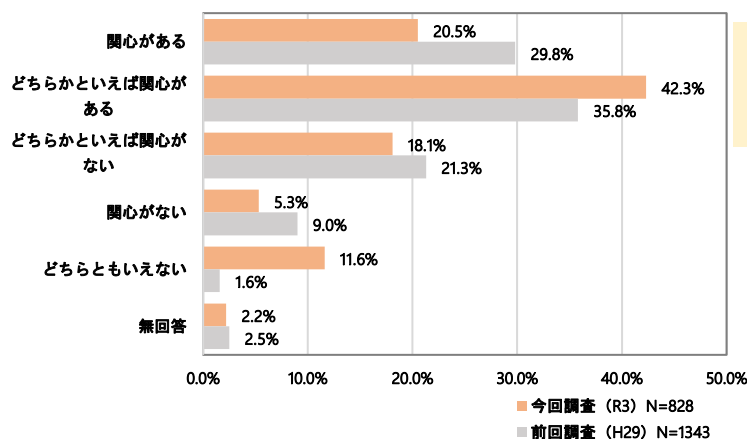
	セールスポイント (自慢できるところ)	今後の心配ごと
1	自然環境や温泉に恵まれている (51.6%) (居住地別) 仁摩62.2%、温泉津58.5%	地域の医療機関や体制 (35.3%) (居住地別) 高山39.0%、東部37.2%
2	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」 (41.4%) (居住地別) 高山48.8%、三瓶47.6%	少子化や若者の流出 (35.3%) (居住地別) 高山39.0%、西部36.7%
3	犯罪・事故や災害が少ない (32.5%) (居住地別) 三瓶45.2%、温泉津37.7%	自分や家族の健康 (31.2%) (居住地別) 西部34.3%、仁摩33.3%
4	大山隠岐国立公園「三瓶山」 (31.6%) (居住地別) 三瓶38.1%、西部34.9%	バスなどの公共交通の利便性の低下 (25.5%) (居住地別) 高山31.7%、仁摩31.1%
5	地場産品や食べ物が美味しい (23.2%) (居住地別) 仁摩26.7%、西部25.9%	高齢者・障がい者に対する福祉 (24.0%) (居住地別) 仁摩42.2%、高山29.3%

※居住地別は、全体平均よりも高い上位地域を示す。

- セールスポイントは「自然や環境に恵まれている」が51.6%と最も高い。
- 今後の心配ごとは「地域の医療機関や体制」が35.3%と最も高い。地域別では「高山」や「東部」で割合が高くなっている。

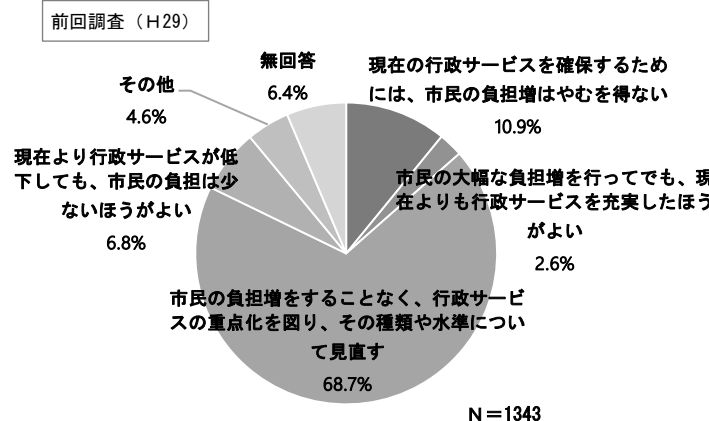
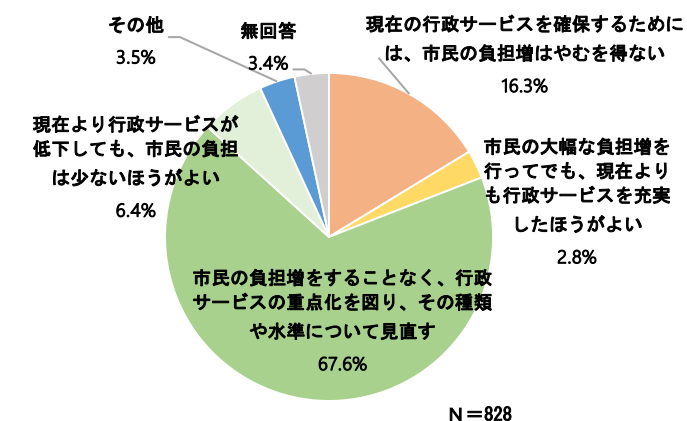
（4）大田市の行政について

① 行政への関心 問16 SA



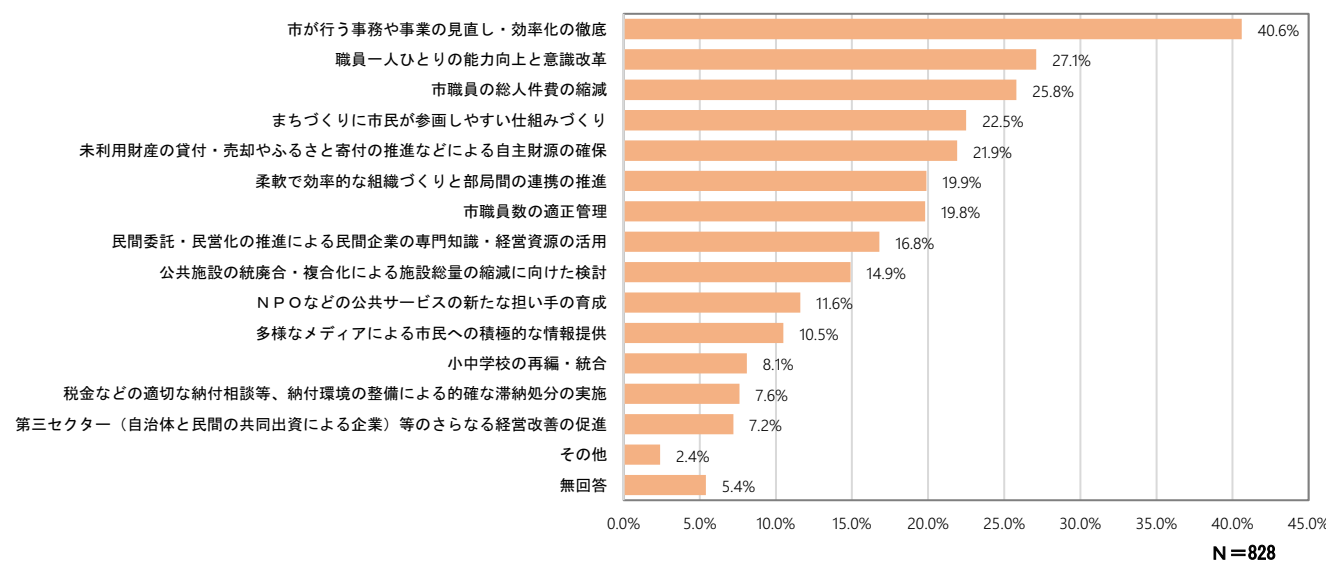
- 『大田市の行政に関心がある』は全体の約6割を占めている。（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）
- 前回調査から「関心がある」が9.3ポイント減少している。

② 行政サービスのあり方 問18 SA



- 「市民の負担増をすることなく、行政サービスの重点化を図り、その種類や水準について見直す」が全体の約7割を占めている。
- 前回調査から「現在の行政サービスを確保するためには、市民の負担増はやむを得ない」は5.4ポイント増加しており、負担とサービスのバランスにおいて、一定の行政サービスの維持を必要としていることが伺える。

③ 今後の行財政改革の優先的な取り組み 問19 MA (3つまで)

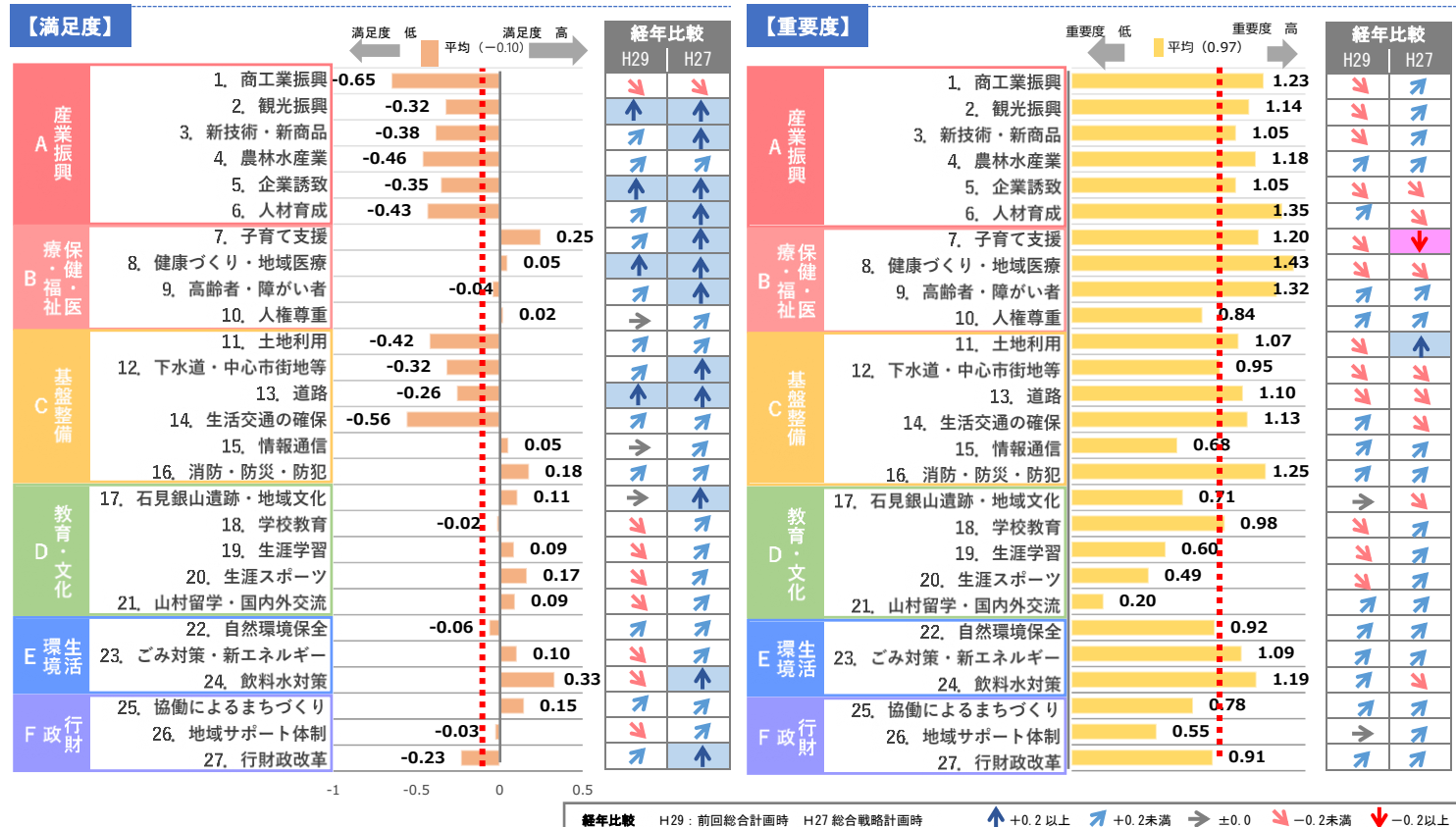


- 「市が行う事務・事業の見直し・効率化の徹底」が40.6%と最も高い。次いで「職員一人ひとりの能力向上と意識改革」が27.1%、「市職員の総人件費の縮減」が25.8%となっており、行財政改革として、事務や事業の見直しや市職員に関する事項が上位となっている。

（5）施策の「満足度」と「重要度」

① 施策の「満足度」と「重要度」の指標化 問14 SA

施策の「満足度」と「重要度」をより的確に分析するために以下のように係数（ウエイト）を設定し、加重平均による指標化を行った。
 「満足」の件数×2点+「やや満足」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「やや不満」の件数×-1点+「不満」の件数×-2点 ÷ (回答者件数-無回答件数)
 「重要」の件数×2点+「やや重要」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「あまり重要でない」の件数×-1点+「重要でない」の件数×-2点 ÷ (回答者件数-無回答件数)



- 施策大綱では「D教育・文化」、「E生活環境」は満足度が高く、「A産業振興」、「B保健・医療・福祉」は重要度が高く、「D教育・文化」、「F行財政」は低くなっている。
- 経年比較では「1.商工業振興」、「18.学校教育」で満足度が低くなっている。その他は、概ね満足度は上がっており、増加傾向である。
- 施策大綱では「A産業振興」「B保健・医療・福祉」は重要度が高く、「D教育・文化」「F行財政」は低くなっている。
- 経年比較では「1.商工業振興」から「3.新技術・新商品」等の「A産業振興」、また「D教育・文化」は経年的に重要度が下がっている。

② 施策に関する満足度と重要度の相関図

